

令和4年6月24日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしく願いいたします。

◆市長

はい、わかりました。本日の話題に入る前に最近の新型コロナウイルスの感染状況について若干お伝えをいたします。本日からの記者会見の場において、私、マスクを外させていただきましたが、感染状況や医療のひっ迫状況等を示す国の評価レベル、静岡県は低いほうから2番目であり、レベル1です。ここに引き下げられました。静岡市の新規感染者数も5月の4週目から減少に転じているのはご承知のとおりであります。引き続き、感染拡大への注意や備えが必要であります。 “いのち” と “くらし” という2つのLifeを守る、取り戻すと、我々、スローガンに掲げたわけであり、けれども、これからは “くらし” を取り戻す取組に力を入れていく、舵を切っていくことができる状況が整いつつあるというふうに理解しています。静岡市内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が確認されてから、およそ2年4カ月が経ちました。改めてこれまでの医療関係の皆さんの多岐にわたるご尽力、そして、市民の皆さんの感染予防やワクチン接種などのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

さて、人の流れやまちの賑わいを皆さんも実感をしていると思いますけれども、戻りつつあります。来月7日からの清水七夕まつり、23日の安倍川花火大会、そして8月5日からは清水みなと祭りと、静岡市の夏の風物詩も戻ってきます。久しぶりに夏休みらしい夏休みを迎えられそうなことをたいへん喜ばしく思っています。それでは本日の最初の話題に移りますが、トライアルパーク蒲原がいよいよオープンをする、という話題でありまして、夏休みなどの機会に、ぜひ多くの市民の皆さんに利用していただきたいというスポットであります。紹介をします。公民連携の新しいかたちを模索するという方針のもと、企業版ふるさと納税制度を活用して整備を進めてまいりました「トライアルパーク蒲原」が7月2日、土曜 10 時にいよいよオープンいたします。記者の皆さんには、お手元にそのチラシが配付されております。このトライアルパーク、将来的には道の駅の整備を視野に入れた試みではありますが、拠点を暫定的にオープンさせる期間を設ける、全国で初めての取組であります。これから3年間を目標に、三つの視点、一つ目、いかにプレーヤーとして多種多様な市民の皆さんや企業の皆さんに参画いただき、多くの、いわば化学反応を起こしてもらおうか。

二つ目の視点、この蒲原地区、私ども静岡市の東の玄関口でありますので静岡市のゲートウェイとして、いかに多くの来訪者を迎えることができるか。そして、3番目としては、お迎えをした皆さんを、いかに、このトライアルパークに、とどまるのではなくて、いわゆる旧市街ですね、オールドタウンと、ダウントウンといいますか、宿場町としての由比宿や蒲原宿、そこに誘っていくという回遊性を準備するか。それは、すなわち静岡市全体への周遊性を高めるつながりにもなろうかと思えます。こんな三つの視点を念頭に、様々なトライアルを進めてみて、この場所にふさわしい機能が何なのかということ、今後3年間に見極めてまいりたいと思えます。つまり机上の空論というか、机上で検討した機能を詰め込んで、いきなり、どんと100%完成ということではなくして、実際に様々なトライアルですね、試行錯誤を、あるいはチャレンジを重ねてより良いものに作り上げていく、そんな私たちの理念も込めて、今回トライアルパーク蒲原というネーミングにいたしました。まずは多種多様なプレイヤーの皆さん方にご参画いただけるよう地元の企業五つ、5社がトライアルパーク蒲原の運営を担うために立ち上げた、株式会社スルガスマイルさんが参画の意思を示す人々や団体をコーディネートしてまいります。そこではキッチンカーの出店やマルシェ、夏祭り、ヨガ教室の開催など、どなたでもプレイヤーとして参画が可能で、出店などの申込は随時受け付けておりますので、ぜひ多くの皆さんに参画していただきたいということをお願いいたします。

なるべく自由度の高い公共空間にしていきたいと思えます。とかく公園というと、これもしちゃいけない、あれもしてはいけないというふうに、今までちょっと窮屈な思いをしていた市民の皆さんもいらっしゃるかと思えますけど、この公共空間は自由度を高めて、そして皆さんの創意工夫を生かしていく、そんな方針を持っていきたいと思っております。

また、多くの来訪者をお迎えし、周遊していただくための方法として、特にこの頃ブームであるサイクルツーリズムですね、この自転車を使ったツーリズムというものを受け入れるということを考えております。その第1弾として自転車に関する様々な事業を全国で展開、そして非常に成功している一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパンの皆さんと連携して、まずは「サイクルボール駿河湾ステージ」を開催いたします。サイクルボール、ご存じでしょうか。例えば、淡路島1周とか、佐渡島1周とか、全国に設定されたサイクリングコースを自転車で走り抜けようというもので、各コースを走り抜くごとにサイクルボールというものが贈呈されて、所定の数のサイクルボールを集めると豪華な景品をもらうことができる、という自転車愛好者にとっては、たいへん人気のあるイベントであります。そこで、トライアルパーク蒲原のオープンを記念して、そのサイクルボールの新しいコースとして、7月2日から、このトライアルパーク

を起点にして清水港、駿河湾フェリーを使った土肥港などをチェックポイントとして、全長 100 キロメートルにわたりますけれども、これを駿河湾 1 周、通称スライチコースと名付けまして、このサイクルボールを開催していきたいと思っておりますので、ぜひ多くの自転車のファンの方々にいらっしやっただいてチャレンジしていただきたいということを PR させていただきます。

それのみならず今後も第 2 弾、第 3 弾のサイクルツーリズムの事業を展開することによって全国から、国内外から多くの方を迎える拠点にしていきたいと考えております。

ここで記者の方々ににはトライアルパークの現在の姿を映像で紹介させていただきます。このオープン日、7 月の 2 日には私も出席いたしますが、式典を催します。併せて、さっそくキッチンカーの出店とか、バーベキューイベントなども開催する予定ですので、当日、ぜひ取材をしていただきたいということをお願いしたいし、今後のトライアルパークの積み重ねといいますか、成長というものを追いかけていただければ大変うれしいと思います。よろしく願いいたします。

二つ目の話題に入ります。これも懸案だったのですが道路損傷等通報システムの運用を開始するという話題であります。6 月 27 日の月曜日から、道路の穴やガードレールの壊れた箇所の情報を、LINE を通じて簡単に市民の皆さんが行政に対して通報していただける「道路損傷等通報システム」の運用を開始します。4 月に機能の拡充を行った静岡市の LINE 公式アカウントのメニュー画面で、今まで準備中となっていたアイコンがありましたが、この準備中が取れて運用開始をするということでもあります。これはご承知のとおりですけれども、これまでは、市民の皆さんが気付いた道路の穴などを発見した場合、電話などをしてもらって、市に連絡していただきましたが、通報する市民の皆さんも、どんな穴なのかとか、口頭で説明するのは大変ですし、職員も場所を特定するのに時間がかかりますし、双方に電話でのやりとりだと大きな負担がかかっていました。そこで、今後は友だち登録をしていただいた市の LINE 公式アカウントのメニュー画面の道路損傷等通報窓口のアイコンをタップしていただき、トーク画面の案内に従って写真や位置情報を送っていただく、そのことだけで職員も損傷状況などを簡単に正確に把握することができるようになり、より一層のスピーディーな対応が可能となることを期待しています。なお、市民の皆さんから通報いただく情報は 24 時間体制で確認し、土曜日、日曜日、祝日や夜間でも緊急性や優先度に応じて対応していくとともに、その対応状況は市のホームページで確認していただけるようにもいたします。広い市域を擁しています、道路は不特定多数の方に利用され、年間の通報件数も今までおよそ 1 万 2,000 件もありました。ですから、このシステムを導入することによる費用対効果は高い

ものと考えております。今後この道路損傷等通報システムの運用状況を見て対象を道路以外にも広げていくことも検討していきたいと考えております。市民の皆さんによる正確な情報の提供は安全・安心で快適な道路空間の確保、ひいては、よりよいまちづくりにつながっていきます。市の公式ホームページや『静岡気分』、公共施設へのチラシの配架などで、このシステムのPRをしてまいりますので、ぜひ、この新しいシステムの積極的なご活用、システムへの通報等でのご協力をお願いいたします。今日、私からは以上です。

◆司会

それでは、ただいまの2件の発表項目につきまして、皆様から、ご質問をお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

日経新聞です。ありがとうございます。LINE公式アカウントのほうなのですが、対象を道路以外に広げることも検討するとおっしゃいましたが、具体的にどのようなところに広げるか、教えていただいてもいいでしょうか。

◆市長

いろいろなところにいくと思います。実務的に少し検討状況を説明する方が正確だと思いますけれども。

◆建設局長

建設局長の池谷です。今のご質問に対して道路以外にもどうということを考えていくのかというところでございますけれど、例えば、河川とか、あるいは公園、そんなようなものを視野に入れながら、運用状況を見ながら、そういったものに展開していきたいな、検討していきたいなと思っております。以上です。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆市長

公園なんかは効果があると思うんですね。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思っております。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

幹事社の日経新聞です。まず1点、歴史的な円安水準が続いており、原材料価格とか原油価格の高騰と併せて大きな影響を受けた事業者も多い。その中で補正予算でも予算を組んでおりますが、今後、長期化が予想される中、追加の対策であったりとか、予算の積み増しであったりとかいうところは検討されているのでしょうか。

◆市長

はい、ご指摘のとおり6月の補正に支援策、計上してありますけれども、今後の情勢いかんによっては追加の新しい支援策も検討を進めてまいります。具体的には各業界、団体や事業者の皆さんから企業物価、消費者物価の上昇傾向、円安の進行など、悲鳴のような声、たくさん聞いておりますので、それに引き続き対応していくということだろうと思います。今回の6月の補正予算は事業者の皆さんの事業の継続と経営発展を支援するという視点から必要な経費を計上いたしました。今回の支援策で十分ではないという声が強いようでしたならば、現在も経済局の職員を中心に各業界の団体などを訪問して、直接、生の声をヒアリングしておって、経営の状況とか支援の必要性とかを把握しようと努めております。日々変化する社会経済情勢の変化を的確に踏まえて、また国や県との行政連携もする中で、まず基礎自治体ですから現場で頑張っている事業者の皆さんの声を受けて、その事業活動を支え、“暮らし”を取り戻すための経済対策を検討していくという体制というか、構えを持ちたいというふうに考えております。

◆日経新聞

ありがとうございます。もう1点、先日清水の新スタジアム構想の検討委員会が始まりましたが、それに対する市長の受け止めや今後の議論に対する課題などを、どのようにお考えでしょうか。お聞かせください。

◆市長

市民の皆さんにも関心の深いテーマであるというふうに理解しております。そこで、第1回の会合をされました。有識者の皆さん、サッカー関係団体の代表者の皆さん、経済界、市民の皆さん、幅広くサッカーに関係のある皆さんに、お集まりいただき、サッカースタジアムを活かしたまちづくりの検討、まずはスタートラインに立ったということを中心強く思っています。第1回目会合の議事録を読ませていただきましたけれども、初回から、かなり活発に意見交換が

なされたということでもあります。まずは場所ですね。複数の候補地を評価していただいて、年末までに委員会としての最有力な候補地案をお示しいただきたいということを願っております。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関連する質問を皆様からお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆朝日テレビ

朝日テレビです。よろしくお願いします。そのスタジアムの場所ですが、スタジアム建設できる土地の選択肢というのは、それほど多くはないと思うのですが、その中でJR清水駅東口のENEOSの所有地というのは、やはり今でも有力な候補地であるというふうな認識はお持ちなのでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。やっぱり駅に近いということはアドバンテージを持ってありますので候補地の一つであります。しかし、そこだけではなくて、ここはフラットに、この議論の推移を見守ってまいりたいというふうに思っています。

◆朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。同じくスタジアムの、まず場所についてなんですけれども、ENEOSの土地が注目されることになった経緯として、2年前に川勝知事が当時の大田社長から「前向きに検討する場面もあろうかと思う」という発言を引き出したことがあったことは間違いがないと思いますが、その後、社長が代わられて、市長はENEOSさんと将来的に考え進めといてくださいね、という話はしたのでしょうか。

◆市長

もちろん、私どもも着実にサッカースタジアムについては、世界中のスタジアムで、私たちの参考になるモデルはないか、研究してきました。その報告書も上がってきております。いよいよ、それを踏まえて、これからどんなサッカースタジアムが求められるか、という検討に入っているわけであります。県との連携ということも必要だと思えます。「ENEOSの土地は津波相当域にあるから大丈夫か」という声も聞いております。でも、一方で、これを防災拠点として活用したらどうか、という意見も聞いております。むしろ絶好の避難場所になるかもしれない。そういった意味では県のほうも清水ウォーターフロントエリアの防潮堤を、これから整備していくという意向を持っておりますので、それとも連携した議論が進むことを期待しております。

◆NHK

今、質問とお答えかみ合わなかったんですが、ENEOSとは、新しい社長とその後、お話をされているのかどうか。

◆市長

前の大田社長とは退任のご挨拶にいらっしゃったときに話をしました。

◆NHK

新社長とは？

◆市長

新社長とは、ぜひ、このお話を、これからしていきたいというふうに思っております。

◆NHK

わかりました。さらに、これも先の話ですが、スタジアムの費用負担についてエスパルスの親会社である鈴与の高橋副社長が記者懇談会の中で、「誰が建てるか決まっているわけではないと思うし、田辺市長に静岡市で建てるよ、と言ってもらえるなら非常にありがたい話だと思う。そのところがまだ決まっていないと理解している。鈴与はお金を出すんですかね、わかりません。」と発言されています。これ自体は高橋副社長の咄嗟の受け答えだったのかもしれませんが、鈴与はこのスタジアムの新設構想については、海洋文化施設に比べると積極的に関与しようという表立った発言は鈴木与平会長からも特になく状態ですけれ

ども、市長は新スタジアムについて、鈴与と何か意見交換や働きかけはしているのでしょうか。

◆市長

市民の皆さんから期待のある案件ですので、いろいろな議論は鈴与の関係の皆さんとも話をしております。もちろん高橋副会頭ともしております。

◆NHK

パナソニックスタジアム吹田については、市長が参考にするとおっしゃっているケースでは、150億円のうち70億円をパナソニックが出しています。それを踏まえると、費用の面で鈴与の関与は重要な論点になってくると思いますが、市長は、鈴与さんが負担することは前提になってくるだろうという、ご認識でしょうか。

◆市長

先日も申し上げましたけれども、公民連携で臨みたいと思います。

◆NHK

その中で鈴与は特に重要な位置、負担面でもお願いすることになるだろうという見通しなのでしょうか。

◆市長

まずは場所を決めてから、その場所ならば、どのようなスタジアムにしなければいけないのか、どのような機能を付加しなければいけないのか、それによってそこにかかる事業費の規模も変わってきますので、まずは場所を決めるという議論を優先したいと思います。それからですね。

◆NHK

わかりました。あと、検討委員会ではエスパルスの山室社長のですね、「今のスタジアムの利用者は、実は50才以上が半分以上で、5年もすれば日本平の坂を上がってこられなくなる方が多数出てくる」という発言も話題になっています。市長も、どちらかというところサポーターの高年齢化への対応として、新スタジアムが駅近くに必要だという認識でしょうか。

◆市長

そうですね、高齢化というよりも、やっぱり広い地域から全世代の方々が、

スタジアムに集まれるような、そんな環境にしていきたいというふうに思っています。

◆NHK

Jリーグのスタジアムの観戦者調査で観客の平均年齢はJリーグ全体で2004年に34.7才だったのが2019年では42.8才と、15年間で8才ほど上昇しています。エスパルスに限ると43.5才で全体よりさらに年齢層高い傾向なのですが、これは市長の肌感覚で結構なのなのですが、子どもたちは我々や市長の世代と同様に静岡をサッカーのまちと考えていると思うか、それとも捉え方に変化があると思うか、いかがでしょうか。

◆市長

それは捉えていると思います。やっぱり『キャプテン翼』は読み継がれておりますしね、プロチームがJ1で頑張っているわけだしね、サッカーのまちという意識は根強くあると思いますし、それは、それを伝えていかなきゃいけないと思います。と同時に、これ、スポーツ・イン・ライフという理念の中でスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」、そんな環境、本当に温暖な恵まれた気候を持っている静岡ですから、関わるというようなことも、すごく大事だろうというふうに思っていますのでね、そのために、子どもたちもいろいろなスポーツに楽しんでもらいたい、そんな環境を整えたいと思っています。

◆NHK

意識が変わっていないのだとしたら、どうしてスタジアムに訪れる観客の年齢層は上昇しているとお考えですか。

◆市長

それは日本全体が高齢化していますので、他のスポーツがどういうふうに推移しているかわからないけれども、一般的な傾向ではないかな、というふうに受け止めています。

◆NHK

例えば、野球観戦に行かない子どもに球場に観に行きなさいと行政から促すことはあまりないと思うのですが、新スタジアムについて、市長は「静岡はサッカーのまちだからサッカーに興味がなくとも、スタジアムを作るから観に行きなさい」と子どもたちに促して、啓蒙していくという立場を取られるのでしょうか。

◆市長

いやいや、そういうことではなくて、今までも地域交流シートというのを設定してね、清水だけではなくて葵区や駿河区の皆さんにもぜひエスパルスの試合を観てほしいというような誘いをしておりました。そのきっかけづくりということは大事なのだろうなというふうに思います。

◆NHK

わかりました。最後に、一部のエスパルスサポーターの間では、静岡がサッカーのまちなのではなく清水がサッカーのまちなのだから、新スタジアムについても旧静岡市民（正しくは旧清水市民）の意見を重視するべきだ、という意見があるのですけれども、市長は、この新スタの議論は清水区民の意見を重視するか、それとも全静岡市民の意見を取りまとめたか、いかがでしょうか。

◆市長

もう一度お願いします。

◆NHK

一部のエスパルスサポーターの間で、静岡がサッカーのまちではなく、清水がサッカーのまちだから新スタの話は旧清水市民の意見を重視してほしい、という意見があるのですけれども、市長は清水の方の意見を重視するか、それともオール静岡市の議論として進めるか、どうお考えでしょうか。

◆市長

その質問はね、静岡は一つです、もう。蒲原も由比も含めて静岡市は一つです。ですので、静岡市は一つということでサッカー、とにかくきちっと定着、継承、発展していくべきものだと思っております。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

同じくサッカースタジアムで、関連でお伺いします。私も検討委員会を拝聴させ

ていただいたのですが、一部の委員の方からも完成目標年度が示されていないことに、やや戸惑いの声が上がっておりました。それで、配られた資料に、配付した例だと、だいたい議論がスタートしてから8年から10年ぐらいかけて完成しているケースが多いようですが、市長もはっきりとした年次は言えないのかもしれませんが、だいたいそのようなイメージを持っていらっしゃいますでしょうか。

◆市長

どういうイメージですか。

◆読売新聞

ようするに目標年度ですね。今からたぶん10年後ぐらいになるんじゃないか、というふうな。

◆市長

それはわかりません。とにかく市営のアイスタ日本平を、もっと交通アクセスの良い所へ、あるいは老朽化したアイスタ日本平をJ1ライセンスのスペックにかなうようにということが、これ、議論のスタートであって、市営のスタジアムですので、市がこのことについて、一つのきっかけとして、この検討委員会を設置するところまでできました。ですので、このことについて議論が深まっていくこと、また市民の皆さんが関心を持ってくださることを期待しております。とにかく、これを成し遂げなければいけない一方で、財政規律というものも考慮しなければなりません。4次総の中で、このことも議論していきますけれども、経済の見通しが、これから不透明の中で、どれだけの政策的な投資をできるかということは、まだ予断を許しません。その中でご質問の工程表ということが出来あがってくるのではないかな、というふうに理解しています。

◆読売新聞

年内はまず候補地を決めて、そうしますと、その後の議論の中で、そういう作業スケジュールも決まっていくということになるわけですかね。

◆市長

そうですね。とにかく、少なくとも私は今年度に、そういう候補地の最有力な案をいただいて、このスタジアムの移転に向けた道筋というものを牽引していきたいなというふうに思っています。

◆読売新聞

まず候補地からにしたっていうのは、やはり整備手法、どこが、どれだけ、どういう費用負担でいくとかというのを決めていくのは、かなり難しいと考えていらっしゃるということの裏返しでもあるんですか。

◆市長

おっしゃるとおりですね。

◆読売新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆市長

やっぱり市民の関心の高さは感じておりますし、今まで調査を重ねてきて、ずいぶんストックがあります。それで、こんなスタジアムが清水にあったらいいな、静岡にあったらいいな、いろんなことをやっぱり今まで考えてきました。それが具体的に始まったというふうに受け止めていただければなと思います。

◆司会

その他いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。同じくサッカースタジアムの件なのですけれども、検討委員会で候補地の比較検討をこれから進めていくと思いますが、一方で先ほど市長おっしゃったとおり、ENEOSの新社長と、これから話をしていきたいとか、有力な候補地等、検討委員会でも一部の発言ありましたけれど、「ENEOSの遊休地ありきではないか」という発言もありましたけれども、今日の、この時点でENEOSの遊休地以外に、市が想定している候補地というのはあるのでしょうか。それとも、これから探していくのでしょうか。

◆市長

エスパルスさんから、2014年でしたっけ、要望いただいたときには東静岡はどうかという話もありましたし、とにかく駅に近いという意味では草薙もあるのではないとか、いろいろな議論がありました。それが、この検討委員会のほうで出された中で議論は収れんしていくものなんだろう、というふうに思っています。いずれにしても交通アクセス等がいいということが条件なのだろうなというふうに受け止めております。

◆テレビ静岡

それは、東静岡とか草薙というのも、一つの案として、今、想定しているということですか。

◆市長

ただ、東静岡については、その当時と状況が変わっていて、アリーナをあそこに整備したほうがいいんじゃないか、という議論もありますので、そのあたりを交通整理していくということで考えていきたいなと思っています。順番もありますのでね。

◆テレビ静岡

今、市長の中で候補地案、今後、検討委員会で比較していく、例えば、何個ぐらいの候補地を想定していますか。

◆市長

それは議論を委ねていきたいと思っています。観光交流文化局(注：企画局)のほうに取材をしてください。

◆テレビ静岡

なるほど。そのの、じゃあ、ちょっと今、想定は持っていない。

◆市長

やっぱり、私は今ね、フラットの立場で、この市民の代表の皆さんの議論を見守らなければならないと思っています。ただし、私も、この期待に応えて将来、移転していきたいという強い気持ちは持っています。

◆テレビ静岡

わかりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。はい、読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売です。すみません、最初のトライアルパークの話に戻りますけれども、これは3年ぐらい経ったら、実際に市のほうが道の駅への昇格を国に求めていくというスケジュールということなののでしょうか、つまり、それは、主体が国になるのか、県になるのかよくわからないのですけれども、道の駅の費用を、整備するために、主体は国になるということなのですか。

◆市長

道の駅は、国が一生懸命、頑張っていくので、その連携というのは視野に、もちろん入れています。

◆読売新聞

普通に考えると成果を踏まえて昇格を求めていくということですか、道筋としては。

◆市長

まずはこの3年間、実績を作っていかなければいけませんので、そのことに力を入れていきたいと思っています。

◆読売新聞

先ほど回遊性の話もされましたけれど、実際、この前ちょっと行ってきたのですけれど、どうなのですかね、そんなに、あそこから旧蒲原宿まで行きやすいのでしょうか、というイメージは若干あるのですけれども。

◆市長

そうですね、そこは課題だろうと思って様々な切り口から検討を進めております。PULSEをあそこに設置をする中で、自転車に乗り換えて、まち乗りについてはPULSEを使ってもらったらいいじゃないか、とかね。いろいろなアイデアは出ております。ただ、事業性を確保しなきゃいけませんのでね、そのあたりのところで、様々な検討がされております。

◆読売新聞

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。前回に続いて2月に静岡病院のコロナ診察後、自宅療養となって亡くなった男性のことについてお尋ねします。市長、前回、当時の対応について、ぜひ報告するよということは、保健福祉長寿局を通じて、この質問をきっかけに指示したいと思ひます、とおっしゃいました。その後、この件についての報告はありましたでしょうか。

◆市長

ありました。小野寺院長にも直接お会いをして、状況について報告を受けました。まず静岡病院では障がいも含めた個々の患者さんの状況に応じて、それに配慮した医療を行っている、ということでした。小野寺院長との面談を通じて病院が適切に診療にあたったということは確認できましたので、市長としてこれ以上できることはない判断いたしました。

◆NHK

適切に診療にあたったということですが、まず、ご遺族のもとに病院から3月の話し合い以来一度も連絡がないというお話を聞いておりますが、市長は遺族と誠実な話し合いを続けてほしいという要請はされなかったのでしょうか。

◆市長

もちろん、その要請はいたしました。また、しているというふうに思っています。それは受け止め方の違いがあるのかもしれませんが。

◆NHK

現に、この3カ月間、3月の話し合い以来、何もないということですが。

◆市長

検査および処方をちゃんと行っているという説明はしているということですし、コロナ感染が疑われる患者さんに対する医療行為として適切であったというふうに、私は院長から言われましたので、このことを信じたいと思っています。

◆NHK

検査については医学的な立場からの主張はあるかと思いますが、対応について、検査を待つ間、陰圧室で待つように言われて、2時間ほどですか、水が欲しくてドアを叩き続けたのに全て無視された、陰圧室のドアを開けると開けないよう

に強い口調で言われた、頭を床に叩きつけるほど苦しんでいた、そういったことに対する配慮が何もなかったと、ご遺族はおっしゃっていますが、この点については何か説明はありますか。

◆市長

いや、それは、ご存じのとおり、病院の立場も診療情報の保護、これを配慮しなければいけませんので、そのことについては市長も、ぜひ、ご理解いただきたいという説明を受けました。

◆NHK

今、バイタルサインの数字の議論をしているわけではなくて、陰圧室で、ずっと待たされたその間、水が欲しくて苦しんでいる知的障害、行動障害のある方に対する配慮、自傷行為もあったと聞いておりますが、例えば、水を1本差し入れるとか、そういった配慮もできなかったのか、何か聞いていますか。

◆市長

いや、聞いていません。それは、やっぱり病院と当事者との間で保護されるべき情報なので、それは別組織でありますので、病院長も留意をした上での説明だったというふうに受け止めています。

◆NHK

今、私が申し上げたような病院での様子については、3月の毎日新聞さんの報道以来、各社報道していますし、これまでの遺族の主張を含めて市長は病院から報告を受けることもできると思いますけれども、そういったことについて改善の余地がなかったのか、市長は特に関心はないということでしょうか。

◆市長

繰り返しますけれども、関心があるからこそ病院長と直接話をして、そして、先ほど申し上げたとおりの説明を受けたわけです。しかし、診療内容ということは患者さんと病院の、その情報の保護ということも考えていかなければいけないということも受け止めましたので、それ以上、私は立ち入るべきではないと、患者さんと病院にお任せをするべきだというふうに理解をしたので、ご理解をお願いしたいと思います。

◆NHK

もう一つご遺族のお言葉をお伝えしますと、市長は病院をかばうこと一辺倒で

はなく、市民の命が失われるようなことが二度とないよう指導をするのが仕事ではないのでしょうかとおっしゃっています。市長、病院から話は聞いたということですが、それを追認するだけなのか、一方の当事者である遺族からは話を聞かないのか、いかがでしょうか。

◆市長

私は小野寺院長と長いお付き合いをさせていただいて、小野寺院長の人間としての生き方、とても敬服しています。すばらしいお医者さんだろうというふうに思っています。そういう意味では、小野寺院長に全幅の信頼を寄せていますので、そこは私の思いも受け止めてくださったことと思います。

◆NHK

遺族は私たちの話も聞いてほしいと、それがかなわないから、私に質問を託してくださっているのだと思いますけれども、市長は病院から話を聞けばそれで十分だと、遺族からは、ご自身でもあるいは担当課からでも中立的な立場から話を聞くというつもりはない、ということでしょうか。

◆市長

それは先ほどから申し上げているとおり、独立行政法人としての法人を持っていますので、そのトップは病院長であり理事長であります。ですから、彼らが守らなきゃならない情報というのがあると、それは記者も個人情報の取り扱いということについては、すごくセンシティブなご意思を持っているというふうに思いますので、ご理解をいただきたいと思います。でも、命を大切にした診療をしていただきたいという、私の市長としての思いは院長に伝えてあります。

◆NHK

個人情報といっても、遺族が話したいと言っていることを、耳を傾けることはできるのではないですか。

◆市長

やはり院長とすると、それは患者さんの診療行為の保護という観点から控えさせていただきたい、ということでもありますので、それを私は受け止めました。

◆NHK

そうではなくて、病院から話はもうそれでいいとして、遺族から市長が話を聞く、あるいは保健衛生医療課などを通じて、遺族の話を知ることにはできるの

ではないですか。

◆市長

私は院長にお任せをしたいと思います。そういう医療についての専門知識を有しているわけでもないのに、先ほど申し上げましたとおり院長の見識に全幅の信頼を寄せております。

◆NHK

障がい者への合理的配慮や福祉的な対応についても、意見を聞くことも必要ないという…

◆市長

いや、ぜひ、先ほど私が申し上げたことを咀嚼してほしいのですけれども、そういうことを院長はされたということを、私に直接言われましたので、それについて理解をしたということでもあります。

◆NHK

それは一方の立場からの主張ですよね。双方から意見を聞くということはしないんですか。

◆市長

それも先ほど私が申し上げましたよね。

◆NHK

市長、今もずいぶん笑みを浮かべていらっしゃいますけれども…

◆市長

いやいや、あのね、私、先ほど、だから院長に委ねたということを申しあげました。

◆NHK

今この瞬間も笑っていらっしゃいますけれども、市長がこのやりとりについて会見で笑みを浮かべることについても、ご遺族は市長が笑っていたことについて前回の記者会見での、市長の突然のカメラ目線での説明に驚いた、私たち遺族に向けて言ったものとは到底思えなかった、何で笑っていたのか、前回の会見の様子からは、市長が市民の命を、どう考えているのか疑問を持たざるを得ないと

訝しがっていらっしゃるようです。市長、もう一度、何に対して笑っているのか、ご説明いただけますか。

◆市長

私の答えをきちっと理解してほしい、という気持ちを穏やかに申し上げたつもりでございます。

◆NHK

なぜ笑う必要があるんですか。何を笑ったんですか。あるいは、今日も何を笑っているんですか。

◆市長

いや、とにかくこういうことで、遺族の皆さんに誤解を与えたくないのです。ですので、遺族の、記者を通じておっしゃったことは、私しっかり受け止めさせていただきます。

◆NHK

誤解だと言うなら何に対して笑ったのか、もう一度説明していただけませんか。

◆市長

あなたがあまりにも私の答えに対して、誠実に受け止めてくださっていないからです。

◆NHK

市長が誠実に答えてないから、市長の考えが訝しく、遺族は思われているのではないのでしょうか。

◆市長

一つの意見として受け止めさせていただきます。

◆司会

それでは45分になりましたので、本日の会見は、こちらで終了をさせていただきますと思います。

それでは、本日の会見は以上とさせていただきます。次回は7月8日の予定とております。本日はありがとうございました。